

太田市自分ごと化会議 2022

第1回会議 議事概要

日時	2022年11月19日(土) 13時~16時
場所	太田市役所 3階 大会議室
コーディネーター	千葉県市原市 企画部長 高澤 良英

凡例) コ：コーディネーター、委：委員、市：市職員

議事概要

■委員の自己紹介

【出席した委員それぞれから自己紹介】

■アイスブレイク

コ 小さなブロックを6個ずつ配る。隣の人のは見ずに、1分間でアヒルを作ってほしい。できあがったら前のテーブルに並べてもらいたい。

それぞれが同じお題で作ったが、1つとして同じものはなかった。

これから皆さんにやってもらう会議には正解が無い。間違っている意見も無い。だから、日頃思っていることを自由に発言してほしい。

この人の考えは自分とは違うなという人がいても、アヒルの作り方の違いと同じだなと思ってほしい。それぞれが正解だと理解して参加してもらえれば、みんな安心して発言できる会議になる。

会議では皆さんに話を振るが、発言できないときはパスでもいい。逆に疑問に思ったことがあったら手を挙げて質問してほしい。

■議論の前に確認しておきたい疑問点

コ まずわからない言葉などがあれば議論の前に確認しておきたい。

委員の自己紹介でBCPという言葉が出てきた。説明してもらってもいいだろうか。

委 災害が起きて操業を止めた、工場が被害を受けたなどの場合に、どう再開するかという計画。BCP(Business Continuity Planning)。昔はいかに商品を作るかだったが、最近では、まず人命を守るのが最優先になってきている。

委 資料の令和元年東日本台風の時の避難指示の経過は？どんな被害があった？

市 市内の4つの河川に5回、土砂災害警戒区域に2回、現在の基準のレベル4「避難指示」を発令。最終的な避難者は約2,500人。床上浸水が約150棟、床下浸水も約180棟。

ここ数年で太田市が避難情報を出したのはこの時が2回目。被害が出た地区の人からはカスリーン台風以来70年ぶりの被害だったと聞いている。

コ 市から出す避難情報の順番、レベルをおさらいしてほしい。

市 市はレベル3「高齢者等避難」から発令。次がレベル4の「避難指示」、最後がレベル5の「緊急安全確保」。

レベル1「早期注意情報」とレベル2「大雨・洪水注意報」は気象庁が発令。

コ 以前はもっと細かい段階があったが、今はこういった形。令和元年東日本台風の時は、レベル4「避難指示」が出た。

委 避難情報はどのような手段で市民に伝えられる？

市 市からのメールやHP、テレビのデータ放送やラジオなどで伝える。

市のLINEもあり、友達登録してもらおうと災害情報の通知が届く。是非登録をお願いしたい。twitterでも発信している。

コ 防災無線はある？また、市からのメールの名称は？

市 防災無線は一部地域にはある。

市からのメールは「安全安心メール」。それ以外にも携帯電話のキャリアなどから「緊急速報メール」というのも届く。

コ 太田市からのメールは、自分で登録しないと届かない。今回の委員で登録している人はいるか。

(委員数名挙手)

実際に市民の登録状況はどんな感じ？

市 全市で2万人くらい。人口割で行くと10%程度。

委 概要説明で、まだまだ行政側としても課題があると言っていた。職員として、こうなったら良いのにとというのがあれば、率直に聞きたい。

市 自助をどう意識してもらうかが一番の課題。どうやったら行動してもらえるのか。行
政がいくら避難指示を出しても、その人自身が行動しないと命が守れない。

コ 危機感を持つとか関心を持つところからはじまる。

「正常性のバイアス」という、私たちの体に最初から設定されているものがある。
例えば、地震が起きたらどうしようと常に考えていたら日常生活ができない。普段の
私たちは非常事態をなるべく考えないようにしている。

災害や危機が迫ってきた時にはこれに邪魔されてしまう。東日本大震災の津波の時
にも避難しなかった人が被害に遭った。

今後災害があって市からの安全安心メールが届いたら、「今いるところは大丈夫？」
と一旦考えてもらいたい。そうすることで、正常性のバイアスが外れて、行動できる
ようになる。

委 市長挨拶の中で、被災地に視察に行ったら救援物資の水が余っていたという話があ
った。この原因は何？

市 災害の種類や規模にもよるが、被災地が欲しいものと、支援する側が送るもののミス
マッチの結果だと思う。

コ 普段市民には自助として水をどれくらい備蓄してほしいと案内している？

市 1日3リットルの飲み水を3日～1週間分備蓄してほしいと案内している。

コ 市長の話を聞いて、水が余るなら避難所に持っていかなくていいと感じた人もいる
と思うが、市長が被災地に視察に行ったのは、おそらく被災した3日後から1週間
後だったのだろう。

大きな地震の直後は道路が寸断されるなどして物資が届かないので、3日程度の水は
自分たちで備蓄しておいてほしいと案内している。大体3日もすると自衛隊や全国
から物資が届き始めるが、タイムラグがあるので、ある時期を過ぎると物資が余ると
いうことも起こるのだろう。なお、飲み水以外にも、生活排水用の水を用意しておく
ことも大切。

委 備蓄している水は避難所に行くときにも持っていく必要がある？

市 持ってきてもらいたい。

コ 東日本大震災の時に実際に避難所担当だったが、救援物資はすぐには来なかった。まずは自分で持っていったもので過ごす必要がある。避難所は体育館のことが多いのでスリッパや、靴を入れる袋も持ってくると良い。

委 ペットの避難は？家に放置していくのは問題と思う。避難所に連れていける？

市 衛生面の問題などで、人と一緒のスペースには避難できない。避難所敷地内の一部にペットだけの避難場所を用意する「同行避難」になる。

避難所には様々な方が来るので、飼い主と一緒に空間に避難する「同伴避難」はできない。地震は突然のため難しいが、台風の際は事前に準備ができる。一緒に避難した時は被害を受けない地域の親戚の家やホテルに事前に避難するのも1つの方法。

コ 同行避難になるということは、他の家のペットと一緒にの場所で過ごさせないといけない。慣れていないと、ペットと一緒にその避難所に行けない。日頃から慣らしておく準備が大切。

委 避難先への物資提供など、民間企業と協定を結んでいる？

市 様々な企業と協定を結んでいる。（詳細は別紙資料「広報おおた防災特別号」参照）

■防災について心配なことや疑問なこと、自分に取り組んでいること

コ 防災について心配なことや疑問なこと、また、自助や共助について、自分や地域ではこんなことをやっているというのがあれば話してほしい。

委 近所と密接な関係を築いて、色んな人とメール友達になっている。

それぞれが自分のことを優先すると問題。自分よりもお隣さんのことを考えるような関係性づくりが大切。遠い親戚よりも近くの他人とも言う。

コ 近所の人は何人家族で、どんな人が住んでいるというのを知ってるという人はどれくらいいるか。

委 新興住宅地のため、同じ時期に建ったご近所さんのことは知っている。

委 自分の場合、様々なところを引っ越してきたので今のところの近所とは全くつながりがない。新築で4軒が一度に建ったがその中でも交流がなく、周辺の古くからの住民とも交流がない。同じ保育園でも感染予防でほとんど話さない。どこに誰が住ん

でいてとか、寝たきりの人がいてなども全くわからない。地区の中でぼつんと居る感じ。何かあったときに助けてもらえるのか不安。

委 自分のところも元々は交流が無かったが、ある日隣人が家に来て、何かあったら夜中でも声をかけてと言ってくれた。それを見た別の隣人が、うちも助けるよと言ってきて、それからは近所で助け合うことができている。

委 市外から太田に来た。隣組に入り地区の人に挨拶周りをしたら、来たばかりでわからないだろうと、いろいろ教えてくれた。それで近所のどこにどんな人がいるのかを知った。

コ それは自分から挨拶に行った？それとも声をかけられた？

委 自分から行った。新しい土地に来たので自分から行かなきゃと思ったので。

委 市外から越してきて最初は孤立していたが、最近は近所の人との交流が増えてきた。何かきっかけがあれば、隣人も話したいと感じるようになると思う。自分の場合は洗車中に、「車かっこいいですね」と声をかけられたところからだった。

コ きっかけをつかむことについて、どう思うだろうか。

委 「何かあったときには助けます」と言いに行くのは失礼かなと思ってしまう。近所の人を見かけたときに挨拶したりはするが、地区でイベントがあった時に話しかけようと思っても、どこに住んでいる人かがわからないことが多く、話しぶらい。地区の住民のことを誰に聞いたらいいかわからず、途方に暮れてしまう。

委 自分の場合は、新しく入ってきた人に、声をかけられたらうれしいと感じる。

委 仕事の関係でなかなか近所の人と接する機会がない。
その部分は妻がやってくれているが、家を建てた当初の隣人のことは知っていても、その後のことまでは把握できていないと思う。

委 祖父祖母と一緒に住んでいるので、そのつながりから近所の人と挨拶したりはするが、隣にあるアパートの人とのつながりは全くない。

委 自分は日本語を話せるが、外国人だからというので、近所の人との関係性を築くこと

に気が引けている。反対に日本語はできないがクリスマスに近所の人に料理をふるまっている人もいる。自分にはその勇気がないと思うし、自分の方から行かないといけなと感じる。

自分も含めて外国人住民は、近所付き合いをしたいけど、日本語ができないから声をかけられないと悩んでいる人も多い。

コ 防災のことで何か思うことはあるだろうか？

委 普段から災害のことは考えていない。起きたらその時その場で考えればよいと思っ
てしまっている。良くないとは思っているが、今まで被災したことがないので、遠い
ところの話とってしまう。

コ 以前まで、一番大地震の発生確率が高い県庁所在地といわれていたのが千葉市、低い
のが熊本市だったが、その熊本で大地震が発生した。100年に一度の災害は明日かも
しれないし100年後かもしれない。

委 避難訓練を地区や、市でやっているという話があった。私の地域でも訓練があり、防
災の係になっているので出席をと言われるが、開催時間が昼間なので仕事などでな
かなか出られない。会議や訓練に出られないことで、組織があるのは知っていても、
災害時にどう動くのかわからない人が多いのではないか。

コ 委員の中で自主防災組織に入っている人はいるか。

(挙手なし)

地域の防災訓練に参加した人はいるか。

委 数日前に消防の訓練に初めて参加したが、煙の怖さを思い知った。

実際に体験するとよくわかる。経験に勝るものはない。

コ さて、ここで気分転換に全員で手遊びをしてみたい。

左手をぐーちょきぱーと順番に変える。それに合わせて右手は左手にじゃんけんで
勝てるように変えてみてほしい。最初はゆっくりでだんだん速くしていく。

ゆっくりはできても、速くなっていくと、中々できないのではないだろうか

災害は急に起こるが、人は急に何かをすることはできない。その時考えればよい、で
は対処できない。東日本大震災の津波の時も、訓練できていた人は高いところに逃げ
て助かった。体で覚えていないと行動できない。避難する時に水を持つのも忘れてし

まうかもしれない。ペットの避難を事前に考えていないと、すぐに避難できない。日頃から災害の時のことを考えておくことが大切。

■防災マップと避難所マップの見方

コ 第2回会議に向けて、防災マップ、避難所マップの見方を担当課からお伝えする。

市 今回、避難所マップと防災マップを配布した。

ハザードマップとも呼ばれ、この地図をみることで、市内の危険なところがわかる。災害の種類によって地図が分かれており、地震の時の揺れやすさがわかるものや大雨の時の浸水の深さがわかるものなど様々なものがある。

防災マップと避難所マップに分かれているが、これは、最新の防災マップが令和元年3月に作成されたが、その年の10月に令和元年東日本台風があり、避難所の考え方を変えたため、避難所マップを改めて作成したことによる。

そのため、台風や大雨時の避難所を確認する場合は避難所マップを。地震の揺れやすさの確認や災害に向けてどう備えたらいいのか防災知識を確認したいときは防災マップをそれぞれ見て欲しい。

なお、マップ発行後の修正点をまとめたA4サイズの資料を一緒に添付してある。

それぞれのマップの見方だが、地震の時の地域の揺れやすさは防災マップのP.7に載っている。

また、台風や水害の時は避難所マップを見てほしい。

避難所マップでは、台風などの大雨が降ったときにどんな危険が生じるのかが確認できるが、どんな強さの台風でもこのマップの表示と同じ被害が起こるわけではなく、実際に降った雨の量で変わってくる。

想定される最大規模の大雨(1,000年に1度)が降った場合の浸水状況がマップに示されており、川から水があふれた場合の被害が示されている。

最大規模の大雨がどれくらいの雨量になるのかは防災マップのP.11の右下に記載されている。

防災マップのP.5の上を書いてあるが、氾濫にも種類がある。防災マップに示されている被害はこの外水氾濫が起こったときになる。

なお、道路や宅地などに降った雨が大きな河川にたどり着くまでの間で氾濫することが内水氾濫。わかりやすい例は道路冠水など。

強い雨の時に自宅の周辺でいつも道路冠水をするとところがあるが、マップ上では色がついていないというのがもあるかもしれないが、それは内水氾濫によるもののため示されていないということ。内水氾濫は想定が難しいため、防災マップには反映されていない。

避難所マップには浸水被害のほかにも、土砂災害のことも示されている。土砂災害が発生した場合に危険な箇所は濃い黄色や赤色で塗られている。

浸水想定の色の説明は防災マップのP.11 右上に記載されている。

薄い黄色は大人の膝丈まで浸水（＝床下浸水）する地域。薄いオレンジは1階が浸水する地域、それよりも濃いオレンジは2階まで浸水する地域。色が濃くなるほど、ひどい浸水が想定される地域というように示されている。

なお、赤いドットが示されているところが利根川や渡良瀬川沿いにあるが、この地域は川からあふれた水の勢いが激しい場合、家ごと流されてしまう可能性があるということ。

1,000年に1度の雨が降った場合、自宅に居ても居なくても、家は浸水してしまう。強い雨の予報が出た場合には、マップの濃い色のところに住んでいる人は速やかに避難してほしい。

1,000年に1度という現実味がないと思う人もいるかもしれないが、起こるかもしれないという目線でマップを確認してほしい。

なお、河川管理者のホームページには、100年に1度の大雨の場合のハザードマップも、載っているので、興味がある人は確認してほしい。

- コ 冒頭の概要説明の中に出てきた災害対策基本法。この法律ができたのは大きな被害が出た伊勢湾台風が原因。何度も法律が改正されているが、これは阪神大震災や東日本大震災など、何度も想定外の大きな災害が起きているから。

■第2回会議までに確認しておいてほしいこと

- コ 第2回会議までに、自宅周辺のマップを見てきてほしい。また、浸水想定の色がどうかだけでなく、周辺の道路状況なども確認してほしい。ブロック塀がある、道が狭い、など。避難所へのルートを確認して、地震の時、台風、大雨の時などそれぞれの時にどういうリスクがあるのかというのを見てきてほしい。

今回は防災マップを開きながら、自分たちの地域にどんな危険があるのか、それに対して自分はどうすればいいのかというのを話し合っていきたい。

最近は線状降水帯によって、急に大雨が起こることも多く、線状降水帯の場合1時間に200ミリということもある。1時間に50ミリでも車の運転なんかできない。あるいは、風速20メートルや40メートルなど、そういった場合にはどんな危険があるのかということを知っておくと見方が変わってくる。

■第1回会議の閉会にあたって確認したいことや言っておきたいこと

コ 最後に確認しておきたいことや言っておきたいことがあれば言ってほしい。

委 以前住んでいた地域では東海豪雨があって相当な被害を受けたというのを体験した人からは聞いた。いつ起こるかわからないので備えないといけない。

委 安全安心メールなどで市から情報が来るのはわかったが、実際の災害時には停電でスマホの充電がないなど、情報が得られないこともある。そういう時はどうやって情報を得たらいいか。

市 災害の種類でも変わるが、地震の時は電波の混雑や停電による電池切れなどで情報が得られないということも起こりうる。自宅が危険な状態であれば、あらかじめ確認しておいた避難所に行ってほしい。

委 自宅ではなく出先で被災した時はどこで情報を得たらよいだろうか。

コ 避難所には情報が集まるので、まずは最寄りの避難所を探してそこに行くのが良い。また、そういう時でもラジオは聞けることが多いので万一来て備えて携帯することや、停電に備えてモバイルバッテリーを携帯しておくのが良い。
なお、自宅に備蓄物資があって避難所に行かないで大丈夫な場合でも、情報をもらいたい時に避難所へ行くというのはいりかもしれない。

■閉会

市 以上で第1回会議を閉会とする。

次回は12月11日(日)の13時からとなる。引き続きよろしくお願ひしたい。